# 1. 令和3年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△27.2ポイント。建設業では8ポイントのマイナスとなったが、卸売業では24ポイント、製造業では23ポイント、小売業、サービス業では12ポイントのプラスとなり、前期1～3月期の△39．8ポイントから12.6ポイント改善した。

| 業種 ＼ 項目 | | 建設業 | | 製造業 | | 卸売業 | | 小売業 | | サービス業 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 4～6月 | 7～9月 | 4～6月 | 7～9月 | 4～6月 | 7～9月 | 4～6月 | 7～9月 | 4～6月 | 7～9月 |
| | | 今期状況 | 見通し | 今期状況 | 見通し | 今期状況 | 見通し | 今期状況 | 見通し | 今期状況 | 見通し |
| 売上高 | | △ 44 (△ 37) | △ 50 (△ 53) | △ 10 (△ 45) | △ 11 (△ 12) | △ 1 (△ 56) | △ 11 (△ 23) | △ 31 (△ 58) | △ 36 (△ 52) | △ 34 (△ 76) | △ 38 (△ 39) |
| 採算 | | △ 26 (△ 18) | △ 32 (△ 44) | △ 20 (△ 34) | △ 30 (△ 30) | △ 32 (△ 45) | 1 (△ 56) | △ 42 (△ 38) | △ 27 (△ 42) | △ 39 (△ 60) | △ 38 (△ 70) |
| 資金繰り | | △ 5 (△ 7) | △ 19 (△ 26) | △ 18 (△ 25) | △ 5 (△ 21) | △ 22 (△ 22) | △ 33 (△ 33) | △ 32 (△ 31) | △ 32 (△ 42) | △ 22 (△ 47) | △ 22 (△ 67) |
| 業況 | | △ 26 (△ 18) | △ 41 (△ 32) | △ 12 (△ 35) | △ 14 (△ 23) | △ 21 (△ 45) | △ 21 (△ 56) | △ 38 (△ 50) | △ 23 (△ 50) | △ 39 (△ 51) | △ 41 (△ 70) |
| 経営上の当面する問題点 | 1位 | 民間需要の停滞 | | 需要の停滞 | | 需要の停滞 | | 需要の停滞 | | 需要の停滞 | |
| | 2位 | 官公需要の停滞 | | 製品ニーズの変化への対応 | | 販売単価の低下 | | 消費者ニーズの変化への対応 | | 材料等仕入単価の上昇 | |
| | 3位 | 材料価格の上昇 | | 生産設備の不足・老朽化 | | メーカーの進出による競争の激化 | | その他 | | その他 | |
| 業種別コメント | | 世界的に木材価格が高騰する「ウッドショック」の影響を受け、日本国内でも輸入材の価格が高騰している。材料確保ができず工事が中断したり、資金繰りが悪化するなどの影響が予想されることから、来期見通しは15ポイントのマイナスとなっている。 | | 半導体・電子部品や自動車部品、コロナ禍におけるアウトドア関連の需要が高まっていることなどから関連業種を中心に回復が見られた。全項目でプラスとなっており、来期見通しについてもほぼ横ばいとなっている。 | | 外出自粛による巣ごもり需要の増加に伴い、関連業種は回復傾向にある。いまだ新型コロナ収束の目途は立っておらず、今後も巣ごもり需要は続くとみられることから来期見通しは横ばいである。 | | 前期に引き続き食品スーパーやドラッグストア、ホームセンターなどの業種は好調を維持しており、業況は12ポイント回復した。来期見通しはさらに15ポイントの回復が見込まれる。 | | 前期は新型コロナ感染者の急増や記録的な大雪の影響が大きく、業況はマイナス51ポイントであったが、県内の感染者数が減少してきたことで、業況は12ポイント回復した。<br>しかし、アルコールを提供する飲食店や比較的規模の大きい飲食店では依然として厳しい状態が続いている。 | |



とくに好調 (50≦DI)　好調 (25≦DI<50)　まあまあ (0≦DI<25)　不振 (△25≦DI<0)　きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD･I値